

2022年度 学校法人 三幸学園 広島ビューティー&ブライダル専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石橋亜希子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

- * 技術力を有する専門職に就く為に必要な資格取得とサービス業に従事する心構えを教育する
 - ・出席することの重要性や資格の必要性・資格取得のメリットをしっかりと伝え、生徒に動機づけする。
 - ・新たな教育コンテンツを有効に活用し、効果測定をしながら、教育の質の向上に努める。
 - ・定期的な教科会を実施し、手合わせや検定合格に向けての具体策を考え実施する。
- * 退学率を下げる為の改善が必要
 - ・出席することの重要性を伝えることと、より良い人間関係を創れる環境を整える。
 - ・卒業生の活躍や業界の魅力を伝える機会を増やし、生徒が前向きに取り組める環境や不安や悩みを相談できる環境を整える。
 - ・生徒募集の際に、具体的な教育内容をしっかりと伝える。
- * 同窓会組織の活性化・認知活動による卒業生支援
 - ・卒業生の活躍を把握し、同窓会活動に積極的に参加できる環境を創る。
 - ・卒業生の現状把握や独立支援・卒業後フォローアップの為Sanko LinkやLINEを活用する。

〈振り返り〉

- * 検定合格率の低下
検定によって合格率が低下した。各検定での取り組みを振り返り、新たな施策を検討し実施する。
- * 退学率の増加
生徒を対象に授業アンケートや学校生活アンケートを行い、課題や時期を把握する。魅力的な授業づくりをすることの重要性を教員に伝え、また、コロナ禍において生徒が抱える不安や悩みを早期に解決できるように、学生の変化に気づき教員間で共有し、対策を講じる。

* 卒業生支援

卒業生対象に、アプリ(Sanko Link)の登録を促し、いつでも連絡がとれるような状態にしている。卒業生からの情報を待つだけでなく、訪問を通し活躍する卒業生と直接対話することで情報を収集し、支援できる取り組みがないかを学校として検討していく。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

- ・学校教育や指導方針についての積極的な理解を得る必要がある。

②今後の改善方策

- ・各学科やコースによって業界の取り巻く環境が違う為、各学科に分けた保護者説明会を実施し理解や協力体制を整える。
- ・保護者説明会は3回、本校でやった。出席率も高く、保護者の理解をしやすい地域。

③特記事項

なし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・オンラインでの業務遂行や在宅勤務に対する整備が整いつつあるが、ネットや Wi-Fi 環境の更なる整備が必要。
- ・教職員の人数の増加し、働き方の多様化に合わせた人事制度の整備が必要。

②今後の改善方策

- ・年度始めにネット環境の改修工事を実施、情報システム部と連携を取りながら、引き続きの整備を進める。
- ・新たな人事制度を検討する。

③特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題

- ・新型コロナウイルス感染に伴い大切にしている職業教育(実技・実習等)や実践教育(サロンワーク)が出来ない状況にある。
教育内容を今一度ご理解いただいた上で、職業教育を提供いただけるよう協力体制やご依頼が必要である
- ・学科等のカリキュラムが体系的に編成されていることを教科担当や生徒に理解してもらう必要がある。
- ・昨年に引き続きメディア授業の内容を精査し、更に良い教育コンテンツを整備する必要がある。

②今後の改善方策

- ・企業訪問、卒業生訪問、インターンシップ・現場実習など、教職員および生徒が現場の方と接点を持ち、随時職業教育や実践教育が出来るようご依頼をする。

- ・育成する人材像(ディプロマポリシー)をもとに各教科がディプロマポリシーのどの部分の達成を担うのかカリキュラムマップを作成し周知する。
- ・現状の美容業界に必要な知識と技術を生徒が主体的に繰り返し学べるツールとして今年作成したデジタル教科書をしっかりと運用し教育の効果測定をする。更に、VR を導入し個別最適化した技術の習熟を図る。また、VR 使用に当たって、教職員の理解を使用方法を習得する研修を実施する。

③特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

①課題

- ・コロナ禍の影響で、欠席をすることに対してハードルが低くなり、休む学生が増え、退学に影響を及ぼしている。
コロナウイルス感染症が2類から5類に移行するにあたり、出席する価値や資格取得の必要性について改めて動機付けが重要である。
- ・美容業界のニーズや動向をいち早く知り、生徒の就職に対するスタンスを理解した上で、適切な就職活動を斡旋する必要がある。

②今後の改善方策

- ・卒業生の活躍を間近で感じる環境(卒業生講話や実技披露)を創り、生徒自身のモチベーションや意欲を促す。
- ・検定合格に向けて教員間で連携をしながら補講等の取り組みを実施する。
- ・卒業生の活躍する現場や企業へ訪問し、求める人材像を生徒へ情報発信する。
- ・同窓会組織の更なる活用を検討している。

③特記事項

なし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・学生個々の不安や悩みを相談できる体制を整える必要がある。
- ・保護者支援に関しては、入学前の保護者説明に積極的に参加いただき、更なる学校教育のご理解とご協力を促す必要がある。
- ・卒業生の人数も増え、卒業後のニーズに合わせた支援を検討する必要がある。

②今後の改善方策

- ・スクールカウンセラーを設置しており周知や案内が出来ていない。今後ポスターを掲示するなどして、要望する生徒が気軽に使用できる環境を整える。
- ・保護者説明会を各科に分けて実施する。今後も細めな連絡を継続することで良好な関係を築き、生徒の後押しを担っていただけるよう働きかけをする。その為にも学生便覧をご理解いただける環境を作っていく。
- ・卒業生の独立支援に関しては、Sanko-Link を通して情報を発信し、卒業生支援に関しては LINE などを用いて随時卒業生の要望を聞ける環境を創る。

③特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・オンライン授業に対する環境の整備はできているものの、まだまだ使用中で問題が散見される。また、今年度はデジタル教科書を使用し授業が展開されるなか、デバイスも含め生徒の授業環境の整備やWi-Fi環境の整備を進める必要がある。
- ・今年度取り入れたVR授業においては、個別最適化できる授業として更なる検定合格に向けてのコンテンツの作成と導入が必要である。
- ・近年生徒の過呼吸や様々な持病を抱えて入学するケースがあり、教職員の安全管理に関する知識や研修実施が必要である。

②今後の改善方策

- ・Wi-Fi環境の整備に関して、3月に工事を実施する予定である。
- ・ネイル検定対策のVRコンテンツを作成し10月より使用できるように準備する。
- ・教職員におけるAEDの講習会を実施した。

③特記事項

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

新学科(ヘアメイク科)の新設に当たり、生徒募集においてトータルビューティー科メイクコースとヘアメイク科での得られる知識や技術の差別化や詳細な告知が出来ていない。

②今後の改善方策

- ・生徒募集のパンフレットやオープンキャンパス等で詳細な説明を実施する
- ・SNSを使用してリアルな授業の様子を掲載していく。

③特記事項

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

今期は、第2中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

特になし

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

- ・コロナ禍においてはサロンワークの授業及郊外実習の開催が厳しい状況にあったが、コロナ禍が落ち着きを見せ積極的に外部への地域貢献やボランティア活動の参画を計画し生徒の成長機会を準備する必要がある。
- ・教育訓練給付金制度の指定を受けているが受講者に必要とされる周知が出来ていない可能性がある。

②今後の改善方策

- ・実習施設の改修を行い環境を整えたため、サロンワークや産学連携を校内で実施し、地域の方に学校教育や生徒の技術に触れてもらえる機会を創設する。
- ・教育訓練給付金制度の指定を受けたため、引き続き実施に向けて周知をおこなう。

③特記事項

なし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

①課題

現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持っていない。

ただし、外国人観光客の多い地域でもあり、今後は外国の方とのコミュニケーションが取れるように準備をしておく必要がある。

②今後の改善方策

検討していく。

③特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◇今後の業界の動きについて

コロナ禍が落ち着き、美容業界にもお客様が戻ってきている。SNS の普及により、企業の採用の仕方やお客様の集客の仕方も変わってきた。物価の高騰により給与形態も見直す企業も増えてきている。お客様の美容に対する価値観も変化しつつあり、技術の流行が早いため、その流行をキャッチできる力が求められる。時代の変化にあわせて対応する柔軟性も必要かもしれない。

◇教育について

ICT 化が進んだ時代になり、教育環境も時代に合わせて見直す時期がきている。当校もトータルビューティー科ネイルコースに VR を導入する計画を立てており、時代の流れにあわせて見直しを図っているところである。学校生活においては、人と関わった経験が少ないまま入学してくる生徒も多く、学生と教員の信頼関係の築き方も難しくなった。特に就職活動では教員との関わり方が大切であり、業界で活躍してもらうために教員が親身になって学生をサポートできるかが大切になる。学校としても今後のサポート体制を見直し、今の世代の学生に響く指導方法を考えていかななくてはならない。